

麻生区区民会議 市民活動・地域活動の活性化部会 調査審議状況

これまでの議論

1. 背景

- 市民活動・地域活動を活性化するためには、活性化支援と合わせて、実際に活動する担い手づくりが必要である。
- 地域におけるコミュニティづくりと合わせて障害者や高齢者等が住みやすいまちづくりが必要である。

2. 対象

- 地元の中学生やシニアなどが担い手とならないか。このために、市民活動・地域活動に参加しやすい仕組みを考える必要がある。
- 閉じこもりがちの高齢者や障害者等が外へ出られる機会が必要である。

3. 方向性

■市民活動の担い手づくり・活性化

- 若年層（地元中学生等）や高齢者を市民活動に参加する仕組みを検討する。
- 多くの区民が市民活動に参加しやすい仕組みを考える。
- 市民活動団体の有効な情報発信方法、情報発信の支援の方法を検討する。

■地域活動の活性化

- 地域活動の活性化を考える。
- 町内会・自治会をベースに互助・共助の地域コミュニティづくりを考える。

■高齢者・障がい者が外へでる機会

- 地域による高齢者、障がい者の見守りの仕組みを検討する。
- 高齢者等が外へ出るきっかけづくり、安心して外に出られる環境を検討する。

部会テーマ
「市民活動・地域活動の活性化部会」

	これまでの意見	項目・課題	方向性（例）
区民が市民活動・地域（活動）に参加	<ul style="list-style-type: none"> 事務量（チラシ作成等）が多く、事務局機能の負担が大きい。 食生活改善推進員のなり手が減っている。 配食サービスの提供者の高齢化が進んでいる。 シニア会員が多くなり、会場確保が難しくなっている。 	市民活動等への運営支援	例：事務機能や団体運営等を担う人材や活動の場を確保する仕組みを検討する。
	<ul style="list-style-type: none"> 災害時など地域のマンパワーとして、中学生の参加や元気なシニア層を活かした地域課題（防災対策）の解決が求められている。 市民活動の担い手の育成と、どう活かすのか問題である。 ボランティアを学ぶ、知る機会を提供する。 地域へ活動を案内・促進するコーディネーターが必要である。 	地域人材の育成と人材活用	例：地域人材の発掘・育成の仕組みを検討する。（麻生市民館・生涯学習支援課で検討中）
	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアを評価する仕組みが必要である。 参加しやすくする仕組み（ポイント制度等）が必要である。 有償ボランティアのイメージを共有し、設置の検討が必要である。 ボランティアをする上で、励みになるものがあると良い。 学んだ技術や特技を活かせる機会があると良い。 楽しみや仲間が増えることをアピールできると良い。 麻生区はボランティア予備軍が多いので背中を押す仕組みが必要。 退職者セミナーを開催するとそれをきっかけに参加する人が多い。 	ボランティア活動の促進	例：ボランティアへ参加しやすくなる仕組みを検討する。 例：単なるボランティアだけではなく、学びや楽しみの機会や仲間作りにつながる仕組みを検討する。
活動団体が区民に情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 閉じこもり気味のシニア等を外に出す仕組みがあると良い。 シニア等が輝く地域づくり。居場所をつくりたい。 障がいを持つ人を理解するための交流の機会をつくりたい。 地域で世代間（高齢者と中学生）の交流の場をつくりたい。 外に出ない理由は一人一人違う。核家族化も影響している。 	シニア等の地域への参加	例：閉じこもり気味の方を外に出すための方法や交流の場づくり、地域の見守りの仕組みを検討する。（健康体操など） 例：閉じこもり気味の方が外の人や情報と接するための仕組みを検討する。
	<ul style="list-style-type: none"> 市民団体等が発信している情報が伝わらない。 区民が望んでいる情報が届いているのか。どこに情報があるのかわからない。 情報の出し方、情報ルート等の整理が必要である。 ボランティアに入りやすい情報提供が必要である。 興味のあるテーマについての情報提供があれば、それをきっかけに参加する。 各団体（やまゆり、市民館、社会福祉協議会など）で良いことをやっているが、伝わらない 相談機能が各機関にあり、統一した窓口が必要である。 様々なテーマを目的に参加する機会が増えると集客になる。 	情報発信の環境整備	例：情報を整理して、区民に対して分かりやすい情報を伝える仕組みを検討する。 例：区民にわかりやすいボランティアに関する情報発信の仕組みを検討する。
活動団体同士の関係	<ul style="list-style-type: none"> 各団体がそれぞれ同じような活動をしているが連携が乏しい。同じ意識を持つ団体同士が連携できる仕組みがあると良い。 地縁型と知縁型（テーマ型）コミュニティでは、担い手づくりや活性化の方法が異なる。 麻生市民交流館ややまゆりには中間支援施設として約600の市民活動団体が登録されている。 町内会・自治会は地域内の互助、共助を担う。広報、美化活動、防災訓練、防犯灯など様々な分野で一軒一軒の顔が見える関係づくりを目指して活動している。 	各活動団体の相互理解	例：活動団体同士がお互いに知り合い、理解し、連携する仕組みを検討する。

審議テーマの絞り込み

今後の検討の進め方

審議テーマ（絞り込まれたテーマ）
＜第3回部会で検討された方向性＞

- 最優先テーマ
ボランティア活動の促進
- 優先テーマ
情報発信の環境整備・シニア等の地域への参加
- 全体に係る課題
市民活動等への運営支援

考えられる課題解決策の検討

- 考えられる課題解決方法を検討し、現況把握調査やモデル事業実施方法を検討する。

現況把握調査・モデル事業等の実施

例：アンケート調査、ワークショップモデル地区を決めて事業を実施。

現況把握調査・モデル事業等の検証、課題解決方法の検討

- 現況把握調査・モデル事業等の検証し、課題解決方法を検討する。

提言（報告書作成）

＜審議の過程で考慮すべき事項＞

- 地域活動等の言葉は委員のイメージによって認識が異なるので認識の統一が必要である。
- ターゲットを定めて、それに応じて必要となる情報提供や支援を考えたかどうか。
- 情報発信等の事業を実施する際は、主体は誰か、どのように行うかを明確にした方がよい。